

2021年度第4回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日 時：2022年1月26日（水）15:30～16:30

場 所：Zoomによるオンライン開催

出席者：99名

欠席者：39名

当日資料：資料1 データサイエンスに関する連携課程プログラム（修士課程）の設置構想について
資料2 短期大学の認証評価受審について

議 事

- (1) データサイエンスに関する連携課程プログラム（修士課程）の設置構想について
- (2) 短期大学の認証評価受審について

審議に先立ち、事務局より配信資料の確認、説明を行った。前回議事録のタイトルが「第1回」から「第2回」に訂正された。

(1) データサイエンスに関する連携課程プログラム（修士課程）の設置構想について

初めに副議長より趣旨説明があった。次にアカデミック・プラン等検討専門第1委員会委員長より、資料1（投影）に基づき報告があった。

主な質疑・意見は以下の通り。

- ・資料1のスライド6に「養成する人材像イメージ」とあるが、実業界に身を置く立場で見ると、所謂アナリストを作るのではないということをおっしゃりたいと理解している。ここで言うビジネスの全体像というのは、現状のビジネスを負荷なく回していくというレベルではなく、仮説立案し仮説検証していくというイノベーションプロセスそのものである。プログラムの詳細を詰めていく際にイノベーションを起こすということをもう少し前面に打ち出しても良いのではないか。データサイエンスを活用してイノベーションを強力に推進できるリーダーシップ、イノベーションリーダーシップなど。データを使って新しい付加価値を世の中に出していくということを考えると、打ち出し方は非常に重要。
- ・海外の事例を分析したことがあるが、日本の大学教育はデータサイエンティストを育てるという点では大変遅れているので、上智でこのようなプログラムを構築していくのは良いアイデアだと思う。実務経験者をサポート教員として入れ、実務家を育てることに重きを置いているが、システム環境構築のエキスパートを育てていくことも重要ではないか。理論だけではなく、サイエンスの方面からのデータ構築、システム構築がどうなっているかを理解できるような人材を育てていくことも重要。自然科学、社会科学だけではなく情報科学についても議論ができる人材というのが一つの人材像になるのではないか。
もう一点、資料1のスライド6にあるデータサイエンティストとデータアナリストの違いについて、前者は自分でデータの裏側にある数学的な理由やコーディングなどを理解した上で意思決定ができることまでが含まれる。カリキュラムの構築にもつながると思うが、数学的知見は大切になってくる。

(2) 短期大学の認証評価受審について

短期大学部検討専門委員会委員長より、資料2（投影）に基づき説明があった。

議長より、意見書とその提出期限について説明があった。

次の開催日程について以下のとおり案内があった。

- ・2022年3月23日（水）15時30分-16時30分 Zoomによるオンライン開催

以上